資料１

令和元年度及び中期目標評価（4年終了時）に係る
公立大学法人福知山公立大学の業務の実績に関する評価結果

（案）

令和２年８月

公立大学法人福知山公立大学評価委員会

目次

Ⅰ　令和元年度及び中期目標評価（4年終了時）に係る業務実績評価について・・・・・1

Ⅱ　評価結果

1　全体評価・・・4

2　大項目別評価・・8

《公立大学法人福知山公立大学評価委員会委員》

区分	職　名　等	氏　名
委員長	京都府立大学名誉教授	あおやま　こうぞう 青山　公三
委員長職務代理	大阪府立大学　事務局 大学運営部長	おおくぼ　まさあき 大久保　正明
委員	社会保険労務士・行政書士 菊田学美事務所	きくた　まなみ 菊田　学美
委員	学校法人共栄学園理事長	なかい　ひろゆき 中井　博之
委員	細見税務会計事務所所長	ほそみ　ひとし 細見　均

Ⅰ　令和元年度及び中期目標評価（4年終了時）に係る業務実績評価について

公立大学法人福知山公立大学評価委員会は、地方独立行政法人法（平成１５年法律第１１８号）第７８条の２第３項の規定に基づき、公立大学法人福知山公立大学（以下「法人」という。）の令和元年度及び中期目標評価（4年終了時）に係る業務の実績について、「公立大学法人福知山公立大学の業務の実績に関する評価方針」、「公立大学法人福知山公立大学に関する年度評価実施要領」及び「公立大学法人福知山公立大学に関する中期目標評価実施要領」により評価を行った。

１　評価に関する基本的な考え方

（１）評価は、法人の教育研究の特性や運営の自主性、自立性に配慮して行うものとする。
（２）評価は、中期目標・中期計画の達成状況等を踏まえ、法人の組織・業務運営等に関して総合的に行い、改善すべき点等を明らかにすることにより、法人運営の質的向上に資するものとする。
（３）評価は、法人が自主的に行う組織・業務全般の見直しや次期の中期目標・中期計画の検討に資するものとする。
（４）評価を通じて、法人の中期目標・中期計画の達成に向けた取り組み状況やその成果をわかりやすく示し、市民への説明責任を果たすものとする。
（５）評価方法については、必要に応じて工夫・改善を行うものとする。

２　評価方法

（１）評価は、法人による自己評価を聴取した上で行った。
（２）評価は、「項目別評価」及び「全体評価」により行った。
（３）「項目別評価」は、「小項目別評価」及び「大項目別評価」により行った。

小項目別評価

年度計画（中期計画）の記載項目（小項目）ごとの進捗状況又は実施状況を確認し、評価を行った。

評価	進捗状況（実施状況）
5	年度計画（中期計画）を大幅に上回って実施している（特に優れる若しくは顕著な成果がある）
4	年度計画（中期計画）を上回って実施している（上回る若しくは十分な実施状況）
3	年度計画（中期計画）を概ね実施している（実施）
2	年度計画（中期計画）を十分に実施できていない（下回る若しくは実施が不十分）
1	年度計画（中期計画）を大幅に下回っている（特に劣る若しくは実施していない）

大項目別評価

小項目別評価の結果を踏まえ、６つの大項目（８区分）ごとに、中期計画（中期目標）の進捗状況について評価を行った。

（１）教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置
①教育の質の向上に関する目標を達成するための措置
②研究の質の向上に関する目標を達成するための措置
③地域協働（地域貢献）の質の向上に関する目標を達成するための措置
（２）業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置
（３）財務内容の改善に関する目標を達成するための措置
（４）自己点検・評価及び情報公開に関する目標を達成するための措置
（５）その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置
（６）福知山市の規則で定める業務運営に関する事項

評価	評価基準	判断の目安
S	中期計画（中期目標）の達成に向け特筆すべき進捗状況である。	・小項目別評価の各項目の評定の平均値が4.3以上であり、かつ、業務の進捗状況や特記事項の内容に特筆すべき進捗や取組みがあると評価委員会が認める場合。
A	中期計画（中期目標）の達成に向け順調に進捗している。	・小項目別評価の各項目の評定の平均値が3.5以上4.2以下であり、かつ、評価委員会が「A」と認める場合。 ・小項目別評価の各項目の評定の平均値が3.5以上4.2以下に満たないが、主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して評価委員会が「A」相当と認める場合。
B	中期計画（中期目標）の達成に向け概ね順調に進捗している。	・小項目別評価の各項目の評定の平均値が2.7以上3.4以下であり、かつ、評価委員会が「B」相当と認める場合。 ・小項目別評価の各項目の評定の平均値が2.7以上3.4以下に満たないが、主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して評価委員会が「B」相当と認める場合。
C	中期計画（中期目標）の達成のためには進捗が遅れている。	・小項目別評価の各項目の評定の平均値が1.9以上2.6以下であり、かつ、評価委員会が「C」相当と認める場合。 ・小項目別評価の各項目の評定の平均値が1.9以上2.6以下に満たないが、主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して評価委員会が「C」相当と認める場合。
D	中期計画（中期目標）の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。	・小項目別評価の各項目の評定の平均値が1.8以下であり、中期計画の達成のためには重大な改善事項があると、評価委員会が認める場合。

全　体　評　価

「項目別評価」の結果を踏まえ、法人の中期計画（中期目標）の達成に向けた業務の進捗状況を総合的に勘案して評価を行った。

評価	評価基準
S	中期計画（中期目標）の達成に向け特筆すべき進捗状況である。
A	中期計画（中期目標）の達成に向け順調に進捗している。
B	中期計画（中期目標）の達成に向け概ね順調に進捗している。
C	中期計画（中期目標）の達成のためには進捗が遅れている。
D	中期計画（中期目標）の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。

Ⅱ　評価結果

１　全体評価

法人は、教育のまち福知山における「知の拠点」として、地方独立行政法人法（平成１５年法律第１１９号）に基づき、福知山公立大学を設置し、及び管理することにより、総合的な知識と専門的な学術を深く教授研究するとともに、地域協働型教育研究を積極的に展開することにより、地域に根ざし、世界を視野に活躍できる高度な知識及び技能を有する人材を育成し、北近畿地域の持続可能な地域社会の形成と地方創生に寄与することを目的としている。

(1)令和元年度評価結果

令和元年度評価	評価基準
B	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。

(2)総評

第１期中期目標期間４年目の事業年度となる令和元年度実績の特筆すべき事項として
①令和元年１１月１９日に文部科学省から「帰納的教育法」を特色とする情報学部の令和２年４月の設置認可を受け、文理２学部入学定員２００名体制を実現したこと。
②教職員の協働によって科学研究費の獲得に向けた取り組みを行い、令和元年度の採択率が２９．４％となり、平成３０年の１０％から飛躍的に上昇し、外部資金の獲得に努めたこと。
③丹波市・朝来市・福知山市との共同により総務省の「関係人口創出拡大事業」モデル事業に採択されたほか、京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会と共催し地域住民向けの生涯学習講座「北近畿創生フューチャーセッション」などを企画実施する等、包括協定を締結した団体と多様な連携事業に取り組まれたこと。
④公開講座の継続開催や「吹風舎（ふくちしゃ）」や北近畿地域連携センターなど大学施設を市民学習の場として開放するなど大学が持つ資源を市民に還元してきたこと。
などが挙げられる。

以上のような状況や、６つの大項目（８区分）別評価結果のいずれもが「Ｂ」（中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。）となっている状況を総合的に勘案し、全体評価は、「Ｂ」（中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。）と評価する。

入学定員２００人の増加により地元の北近畿地域からの志願者・入学者が増加している一方で、情報学部の設置認可が当初の見込みより遅れた影響もあるが、情報学部初年度の志願倍率及び実質競争倍率の低さは懸念されるところである。法人は今まで蓄積してきたデータや当地域の高校へのヒアリング結果を分析し、学生募集活動を強化していただきたい。

教職員の不足が開学以来の課題であり、文理２学部２００名体制となったことから業務量の増加が見込まれる。厳しい財政状況であることから業務の効率化を図っていただきたいが、教職員に過度の負担が増えるようであれば教職員等の増員を含めて、検討いただきたい。

【令和元年度　大項目別評価結果】

評定 / 大項目	S 特筆すべき進捗状況である	A 順調に進捗している	B 概ね順調に進捗している	C 進捗が遅れている	D 進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある
教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 ①教育の質の向上に関する目標を達成するための措置			○		
教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 ②研究の質の向上に関する目標を達成するための措置			○		
教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 ③地域協働（地域貢献）の質の向上に関する目標を達成するための措置			○		
業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置			○		
財務内容の改善に関する目標を達成するための措置			○		
自己点検・評価及び情報公開に関する目標を達成するための措置			○		
その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置			○		
福知山市の規則で定める業務運営に関する事項			○		

（2）中期目標（4年終了時見込）評価結果

中期目標評価 （４年終了時見込）	評価基準
B	中期目標の達成に向け概ね順調に進捗している。

中期目標評価（４年終了時）における特筆すべき事項として
①私立大学から公立大学に移行し、多くの課題がある中で入学定員を平成２８年度は５０名、平成２９年度から１２０名に増加した。そして、平成２９年度に福知山市、京都工芸繊維大学と連携し、「知の拠点」整備構想を策定し、「帰納的教育方法」を特色とする情報学部が令和元年１１月１９日に文部科学省から設置認可を受け、文理２学部２００名体制となったことで中期目標に定める学部学科編成の最適化及び入学定員２００名を１年前倒しで達成したこと。
②公益財団法人大学基準協会による大学認証評価の「適合」の認定を公立大学に移行して１年で受け、私立大学時代に受けた「不適合」状態を解消したこと。
③安定的な法人経営・大学運営を図るうえで、最も重要な入学者の確保については、教職員が一丸となって例年１０００校の高校訪問を実施するなど、精力的に学生募集を行ったことによって全国の高校から志願者を確保し、確定志願倍率は毎年、国公立大学の平均を上回り、入学定員を確保できていること。
④開学以降４年連続で就職希望者の就職内定率１００％を達成し、卒業生１３８人（うち北近畿地域出身者４０人）のうち、３２人が北近畿地域に就職するなど「地域で学び、地域で働く」人材循環システムの構築に取り組まれていること。
⑤北近畿地域連携センター、市民学習・キャリア支援センター、まちかどキャンパス吹風舎（ふくちしゃ）を開設し、市民のための大学づくりに積極的に取り組まれていること。また、京都北部４市２町（舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、与謝野町、伊根町）を含む計１７団体と包括協定締結や民間の約５０団体で構成する「北近畿地域連携会議」をはじめ産学公のネットワークを構築するなど地域研究の拠点大学づくりへの取り組みを着実に推進していること。
などが挙げられる。

以上のような状況や、６つの大項目（８区分）別評価結果のいずれもが「Ｂ」（中期目標の達成に向け概ね順調に進捗している。）となっている状況を総合的に勘案し、全体評価は、「Ｂ」（中期目標の達成に向け概ね順調に進捗している。）と評価する。

一方で、開学以来全国から志願者を集めているが、地元の北近畿地域からの志願者のさらなる増加が期待される。福知山公立大学が真に「地域のための大学」となるためには、さらなる取り組みが必要である。「地域で学び、地域で働く」人材循環システムを構築することが、法人の責務である北近畿地域の持続可能な社会の形成と地方創生に寄与することにつながる。ついては、地元の高校生が入学したいと思えるよう、大学の魅力づくりに引き続き取り組むとともに、関係機関と連携して地元高校への学生募集活動をより一層強化していただきたい。

今後、次期中期目標期間を見据えた将来計画を策定するにあたって、「知の拠点」整備構想で中長期的課題と位置付けられている大学院の設置やキャンパスの充実などを検討されているが、市民や地域社会、産業界など外部からの意見を積極的に取り入れて、法人のさらなる発展、そして福知山公立大学が北近畿地域における「知の拠点」となるよう取り組んでいただきたい。

厳しい財政状況であることは理解するが、教職員の不足が開学以来の課題であり、令和２年度からは情報学部が新設され２学部２００名体制となり、さらなる業務量の増加が見込まれる。今後の大学運営及び地域連携事業など各種取り組みを着実に実施していくために教職員の採用を計画的に行い、法人全体で教職員の適正配置を実現し、大学運営の安定化に努めていただきたい。

令和元年度に科学研究費の採択率約３０％を達成するなど外部資金の獲得に向けて精力的に取り組まれているが、数値目標を設定し、科学研究費だけでなく行政や企業との共同研究及び受託研究の獲得を目指していただきたい。

【中期目標（4年終了時） 大項目別評価結果】

評定 / 大項目	S 特筆すべき進捗状況である	A 順調に進捗している	B 概ね順調に進捗している	C 進捗が遅れている	D 進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある
教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 ①教育の質の向上に関する目標を達成するための措置			○		
教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 ②研究の質の向上に関する目標を達成するための措置			○		
教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 ③地域協働（地域貢献）の質の向上に関する目標を達成するための措置			○		
業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置			○		
財務内容の改善に関する目標を達成するための措置			○		
自己点検・評価及び情報公開に関する目標を達成するための措置			○		
その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置			○		
福知山市の規則で定める業務運営に関する事項			○		

２　大項目別評価

第４　教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

１　教育の質の向上に関する目標を達成するための措置

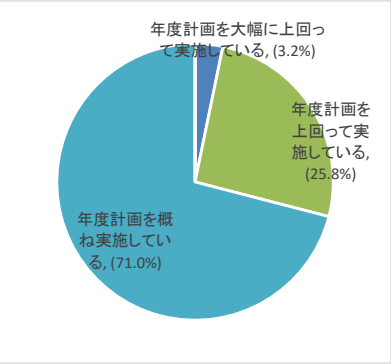
令和元年度評価	評価基準
B	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。

評定平均
3.3

(1)評価理由

小項目別評価は下記の表の評価結果となり、評定平均値が３．３となっているため、大項目別評価としては、「B」評価であり、中期計画の達成に向け概ね順調に進捗していると認められる。

	項目数	5 年度計画を大幅に上回って実施している	4 年度計画を上回って実施している	3 年度計画を概ね実施している	2 年度計画を十分に実施できていない	1 年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	31	1	8	22	0	0
	構成比(%)	(3.2%)	(25.8%)	(71.0%)	(0.0%)	(0.0%)



(2)概況

(評価できる点等)

○　「知の拠点」整備構想に基づき、情報学部の設置に向けて施設等の整備を行い、文部科学省から情報学部の設置認可を受けたこと。

○　教育研究等の質の向上に関わる自己点検・評価の体制を見直し、半期ごとに教育の成果、内容、年度計画の進捗状況を点検し、その結果を学内にフィードバックする体制を整えてPDCAサイクルを構築した。

○　地域の高校に担当職員を配置し、きめ細かい高校訪問を実施するなど三たん地域の志願者・入学者を確保するための方法を検討し、実施してきたこと。

○　学生増加に対応するために福知山市と連携し、学生向け住宅建設・運営事業の公募型プロポーザルを実施するなど住宅確保に努めたこと。

(課題となる点等)

○　大学運営の基礎となる優秀で多様な入学者の確保については、それ自体が教育の質の向上と大学評価につながるため、十分な入試実質倍率を実現して募集定員を充足させ、同時に入学者の質を維持・向上させる必要がある。その点では、設置認可の遅れによる影響はあるが、情報学部の初年度の倍率が期待されたほど高くなく、推薦入試(地域枠)にも改善すべき課題がある。

○　大学入学共通テストが実施されるなど、入試制度が変更されるため選抜方法の変更などを迅速に対応いただきたい。

○　コロナ禍において、企業説明会が中止されるなど就職活動に影響を与えているため就職活動の支援に力を入れていただきたい。

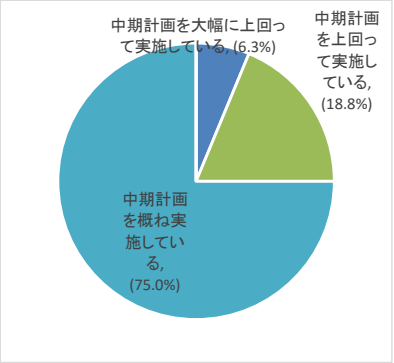
中期目標評価 （４年終了時見込）	評価基準
B	中期目標の達成に向け概ね順調に進捗している。

評定平均
3．3

（1）評価理由

小項目別評価は、下記の表の評価結果となり、評定平均値が３．３となっているため、大項目別評価としては、「B」評価であり、中期目標の達成に向け順調に進捗していると認められる。

	項目数	5 中期計画を大幅に上回って実施している	4 中期計画を上回って実施している	3 中期計画を概ね実施している	2 中期計画を十分に実施できていない	1 中期計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	16	1	3	12	0	0
	構成比（%）	（6．3%）	（18．8%）	（75．0%）	（0．0%）	（0．0%）



（2）概況

（評価できる点等）

○　平成29年度に大学認証評価を受審し、旧私学時代の「不適合」から「適合」の認定を受けたことは大きな努力の賜物であり、認証評価機関の評価結果等を踏まえて、大学及び法人運営の改善に努めていただきたい。

○　多くの課題がある中で、中期計画の達成に向け努力を積み重ねて一定の成果を出している。とりわけ地域経営学部の運営と並行して、福知山市が策定した「知の拠点」整備構想に基づいて、「帰納的教育方法」を特色とする情報学部新設に係る申請業務を完遂し、入学定員200名を達成されたことは高く評価できる。

○　旧私立大学時代のカリキュラムを整備し、開学から4年連続で就職内定率100％を達成するなど就職支援も充実して行ってきたこと。また、北近畿地域への就職者数も年々増えており、「地域で学び、地域で働く」人材循環システムの構築に向けて引き続き努力していただきたい。

○　地域の課題と向き合う地域協働型実践教育を福知山市をはじめとする北近畿地域で展開し、学生の主体的な学びを推進していること。

（課題となる点等）

○　北近畿地域の入学者数と募集定員に対する割合に課題がある。高校訪問などを精力的に行い、全国から志願者確保に努められていることは理解できるが、北近畿から多くの生徒が受験する魅力あふれる大学を目指して一層努力され、着実に成果を出していただきたい。

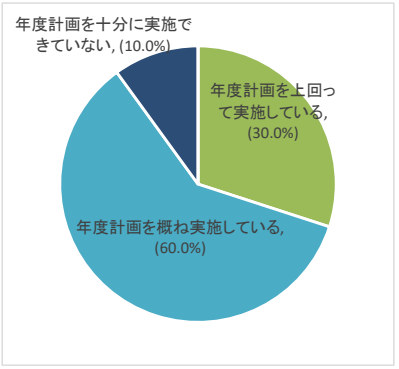
○　設置認可が遅れたことから情報学部初年度の志願者数が少なかったことは理解できるが、志願倍率及び実質競争倍率の低さは懸念されるところである。志願者層や地域を分析した上で募集戦術を組み立てていただきたい。

○　今後、将来構想を策定するにあたり、大学院の設置やキャンパスプランの策定を検討されているが、市民や地域社会、産業界などの外部意見も取り入れて、北近畿地域における「知の拠点」づくりを推進していただきたい。

2　研究の質の向上に関する目標を達成するための措置

令和元年度評価	評価基準
B	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。

評定平均
3．2



(1)評価理由

小項目別評価において、下記の表の評価結果となり、評定平均値が３．２となっているため、大項目別評価としては、「Ｂ」評価であり、中期計画の達成に向け概ね順調に進捗していると認められる。

	項目数	5 年度計画を大幅に上回って実施している	4 年度計画を上回って実施している	3 年度計画を概ね実施している	2 年度計画を十分に実施できていない	1 年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	10	0	3	6	1	0
	構成比(%)	(0．0%)	(30．0%)	(60．0%)	(10．0%)	(0．0%)

(2)概況

(評価できる点等)

○　科学研究費への申請代表者としての応募率が100%となり、採択率も年度計画に掲げた30%を概ね達成したことは、教員の研究に対する前向きな姿勢が感じられる。

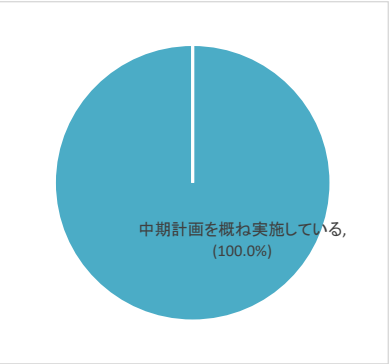
○　「北近畿地域研究会」を立ち上げて地域研究の成果と課題をまとめ、「地域協働型教育研究(地域研究プロジェクト)」では市民を対象に成果報告会を開催するなど、中期目標を達成するための取り組みが出来ている。

(課題となる点等)

○　地域研究拠点として更なる強化及び情報学部開設による文理連携にも積極的に取り組んでいただきたい。

中期目標評価 （４年終了時見込）	評価基準
B	中期目標の達成に向け概ね順調に進捗している。

評定平均
3．0



（1）評価理由

小項目別評価において、下記の表の評価結果となり、評定平均値が３．０となっているため、大項目別評価としては、「Ｂ」評価であり、中期目標の達成に向け概ね順調に進捗していると認められる。

	項目数	5 中期計画を大幅に上回って実施している	4 中期計画を上回って実施している	3 中期計画を概ね実施している	2 中期計画を十分に実施できていない	1 中期計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	7	0	0	7	0	0
	構成比（%）	(0．0%)	(0．0%)	(100．0%)	(0．0%)	(0．0%)

（2）概況

（評価できる点等）

○　「地域経営学研究会」、「地域協働型教育研究会」、「北近畿地域研究会」を順次発足し、地域経営研究の拠点大学づくりへの取り組みを着実に行った。今後は新設された情報学部と既存の地域経営学部と文理連携型の地域協働型の教育研究を推進いただきたい。

○　平成29年度に民間の約50団体で構成する「北近畿地域連携会議」を発足、開学以来4年間で京都府北部4市2町を含む計17団体と包括協定を締結するなど、北近畿地域の企業や行政など様々な団体と連携体制を築いたこと。

（課題となる点等）

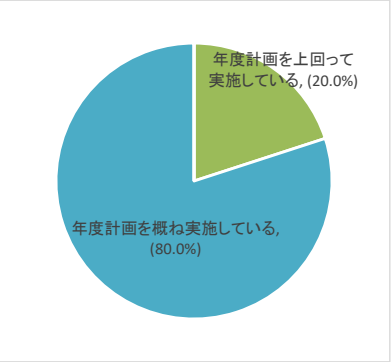
○　地域研究拠点として大学の取り組みを明確にしていただくとともに研究成果を積極的に地域社会に還元していただきたい。

○　外部資金の獲得は財務内容の改善にも関連した重要なものであるため、数値目標を設定し、全学体制で積極的に外部資金の獲得に努めていただきたい。

３　地域協働（地域貢献）の質の向上に関する目標を達成するための措置

令和元年度評価	評価基準
B	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。

評定平均
3．2



（1）評価理由

小項目別評価において、下記の表の評価結果となり、評定平均値が３．２となっているため、大項目別評価としては、「Ｂ」評価であり、中期計画の達成に向け概ね順調に進捗していると認められる。

	項目数	5 年度計画を大幅に上回って実施している	4 年度計画を上回って実施している	3 年度計画を概ね実施している	2 年度計画を十分に実施できていない	1 年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	10	0	2	8	0	0
	構成比（%）	(0．0%)	(20．0%)	(80．0%)	(0．0%)	(0．0%)

(2)概況

(評価できる点等)

○　公開講座などの継続的開催や北近畿地域連携センターが所管する施設の貸し出しなど地域に開かれた大学として実績を上げられていること。

○　学生や教職員が、市民や地元企業や各種団体と交流し共に学ぶ「まちかどキャンパス」の活用実績が評価できる。

(課題となる点等)

○　地域協働型の研究活動と教育活動を推進することで、学生が北近畿地域の地方公共団体、各種団体、世界・日本・地域で活躍する企業等に深い関心を持ち、つながり、引いては持続可能な地域社会の形成と地方創生に彼らが貢献するような仕組みを充実していただきたい。

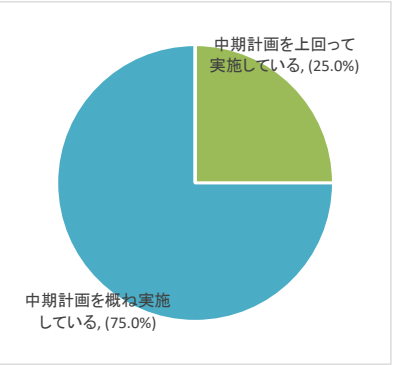
中期目標評価 （４年終了時見込）	評価基準
B	中期目標の達成に向け概ね順調に進捗している。

評定平均
3．3

（1）評価理由

小項目別評価において、下記の表の評価結果となり、評定平均値が３．３となっているため、大項目別評価としては、「B」評価であり、中期目標の達成に向け順調に進捗していると認められる。

	項目数	5 中期計画を大幅に上回って実施している	4 中期計画を上回って実施している	3 中期計画を概ね実施している	2 中期計画を十分に実施できていない	1 中期計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	8	0	2	6	0	0
	構成比（%）	(0．0%)	(25．0%)	(75．0%)	(0．0%)	(0．0%)



（2）概況

（評価できる点等）

○　公開講座はじめとする市民学習の機会を継続的に開催し、北近畿地域連携センターやまちかどキャンパス「吹風舎」など、大学施設の開放を行うなど地域に開かれた大学として着実に実績を積まれていること。

○　北近畿地域連携センター、市民学習・キャリア支援センター、まちかどキャンパス吹風舎を開設するとともに、京都府北部の4 市2 町を含む計17 団体の包括協定締結や北近畿地域連携会議を発足させて、地域経営研究の拠点大学づくりへの取り組みを推進したこと。

○　包括協定締結先とまちかどキャンパス事業や総務省の「関係人口創出拡大事業」等、様々な事業に取り組まれたこと。

（課題となる点等）

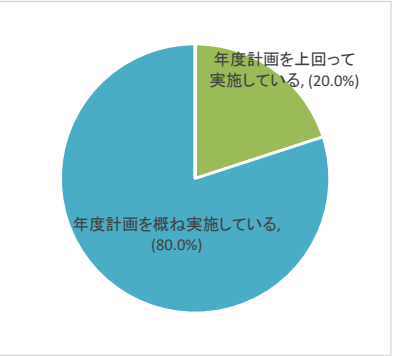
○　研究成果を積極的かつ有効的に地域社会のために活かしていただきたい。

○　地域協働型の研究活動と教育活動を推進することで、学生が北近畿地域の地方公共団体、各種団体、世界・日本・地域で活躍する企業等に深い関心を持ち、つながり、引いては持続可能な地域社会の形成と地方創生に彼らが貢献するような仕組みを充実していただきたい。

第５　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

令和元年度評価	評価基準
B	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。

評定平均
3．2



（1）評価理由

小項目別評価において、下記の表の評価結果となり、評定平均値が３．２となっているため、大項目別評価としては、「Ｂ」評価であり、中期計画の達成に向け概ね順調に進捗していると認められる。

	項目数	5 年度計画を大幅に上回って実施している	4 年度計画を上回って実施している	3 年度計画を概ね実施している	2 年度計画を十分に実施できていない	1 年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	20	0	4	16	0	0
	構成比（%）	(0．0%)	(20．0%)	(80．0%)	(0．0%)	(0．0%)

(2)概況

(評価できる点等)

○　アドバイザリー・コミッティの開催や高校訪問などによって外部の意見を取り込み、検証を伴いながら大学運営に活かされていること。

○　FD及びSDを積極的に実施し、外部研修にも職員を計画的に派遣する等、教職員の養成に力を入れていること。

(課題となる点等)

○　人事評価制度が本格的に実施されたが、質の精査及び職員の資質向上に努めていただきたい。

○　大学経営・大学運営の適法性、適正性、妥当性、有効性、効率性に関わる重要課題を明らかにし、有効な手立てを考え、順次、適切に対処するという地道な取り組みが良質な大学を作る。その観点でいうと、内部意見や外部意見の中から重要課題と判断したものについては、次年度の年度計画に挙げて有効な対処を講じて業務実績を報告された方がよい。

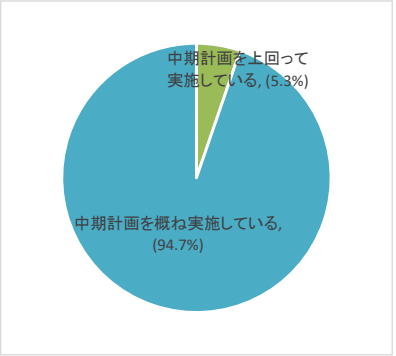
中期目標評価 （４年終了時見込）	評価基準
B	中期目標の達成に向け概ね順調に進捗している。

評定平均
3．1

（1）評価理由

小項目別評価において、下記の表の評価結果となり、評定平均値が３．１となっているため、大項目別評価としては、「B」評価であり、中期目標の達成に向け概ね順調に進捗していると認められる。

	項目数	5 中期計画を大幅に上回って実施している	4 中期計画を上回って実施している	3 中期計画を概ね実施している	2 中期計画を十分に実施できていない	1 中期計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	19	0	1	18	0	0
	構成比（%）	(0．0%)	(5．3%)	(94．7%)	(0．0%)	(0．0%)



(2)概況

(評価できる点等)

○　平成29年度に大学認証評価を受審し、旧私学時代の「不適合」から「適合」の認定を受けたことは大きな努力の賜物であり、認証評価機関の評価結果等を踏まえて、大学及び法人運営の改善に努めていただきたい。

○　公式ホームページや各種SNSの活用、広報誌やニュースレターの発行や自治会回覧の活動など情報発信を積極的に行われており、地元の新聞等も通じて大学や学生の活動が市民の目に留まる機会が多いこと。

(課題となる点等)

○　各種取り組みを通じて、大学に対する市民ニーズを把握し、応える課題を精査し、大学の持つ知や資源を市民に還元いただきたい。

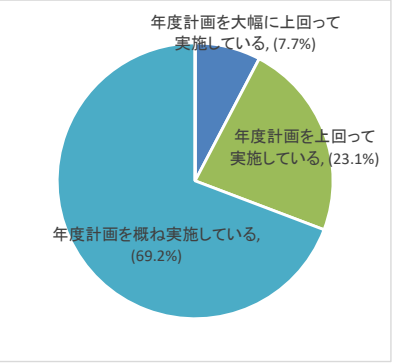
○　大学経営・大学運営の適法性、適正性、妥当性、有効性、効率性に関わる重要課題を明らかにし、有効な手立てを考え、順次、適切に対処するという地道な取り組みが良質な大学を作る。その観点でいうと、内部意見や外部意見の中から重要課題と判断したものについては、次年度の年度計画に挙げて有効な対処を講じて業務実績を報告された方がよい。

○　教職員の不足が開学以来の課題であり、情報学部が新設され2学部体制となり、更なる業務量の増加が見込まれる。今後の大学運営及び地域連携事業など各種取り組みを着実に実施していくために法人全体で教職員の適正配置や労務管理を実施していただきたい。

第６　財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

令和元年度評価	評価基準
B	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。

評定平均
3．4



(1)評価理由
　小項目別評価において、下記の表の評価結果となり、評定平均値が３．４となっているため、大項目別評価としては、「Ｂ」評価であり、中期計画の達成に向け概ね順調に進捗していると認められる。

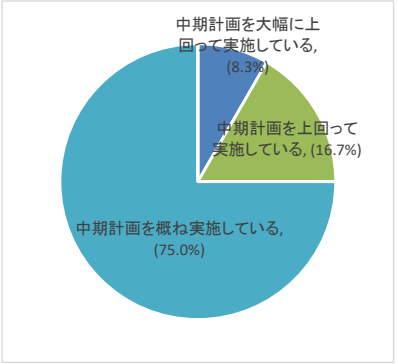
	項目数	5 年度計画を大幅に上回って実施している	4 年度計画を上回って実施している	3 年度計画を概ね実施している	2 年度計画を十分に実施できていない	1 年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	13	1	3	9	0	0
	構成比(%)	(7．7%)	(23．1%)	(69．2%)	(0．0%)	(0．0%)

(2)概況
(評価できる点等)
○　情報学部開設によって入学定員が増加し、定員を充足させて、自己財源を確保されたこと。
○　科学研究費獲得に向けたFDの実施や研修への参加を通して、採択率が約30%となり、昨年度よりも飛躍的に上昇するなど外部資金獲得のための取り組みに力を入れたこと。引き続き、外部資金獲得ための取り組みに力を入れていただきたい。

(課題となる点等)
○　情報学部の初年度入試の実質競争倍率等の低さは懸念されるところである。地域経営学部とともに志願者及び定員の確保に引き続き務めていただきたい。

中期目標評価 （４年終了時見込）	評価基準
B	中期目標の達成に向け概ね順調に進捗している。

評定平均
3．3



（1）評価理由

小項目別評価において、下記の表の評価結果となり、評定平均値が３．３となっているため、大項目別評価としては、「Ｂ」評価であり、中期目標の達成に向け概ね順調に進捗していると認められる。

	項目数	5 中期計画を大幅に上回って実施している	4 中期計画を上回って実施している	3 中期計画を概ね実施している	2 中期計画を十分に実施できていない	1 中期計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	12	1	2	9	0	0
	構成比（%）	(8．3%)	(16．7%)	(75．0%)	(0．0%)	(0．0%)

(2)概況

(評価できる点等)

○　開学以来、入学定員の増加に努め、平成29年度からは地域経営学部の入学定員を50人から120人とし、令和元年11月に情報学部の設置認可を受けたことで令和2年度から地域経営学部・情報学部合わせて入学定員が200人となった。

○　例年約1000校の高校訪問を実施し、志願者及び入学者の確保に努めたことによって自己財源を確保していること。

○　科学研究費の採択率が令和元年度には約30％になるなど、外部資金を獲得するための工夫や取り組みを実施されてきたこと。

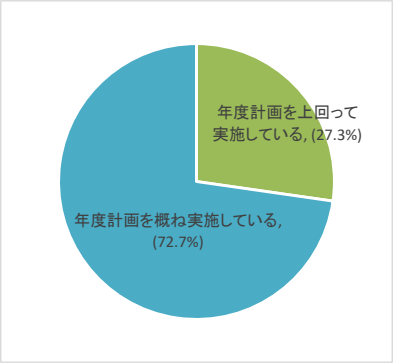
(課題となる点等)

○　数値目標を設定し、科学研究費をはじめ外部資金の獲得に向けた取り組みを引き続き行っていただくとともに企業や行政など各種団体との共同研究及び受託研究にも取り組み、自己財源の確保に努めていただきたい。

第７　自己点検・評価及び情報公開に関する目標を達成するための措置

令和元年度評価	評価基準
B	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。

評定平均
3．3



（1）評価理由

小項目別評価において、下記の表の評価結果となり、評定平均値が３．３となっているため、大項目別評価としては、「Ｂ」評価であり、中期計画の達成に向け概ね順調に進捗していると認められる。

	項目数	5 年度計画を大幅に上回って実施している	4 年度計画を上回って実施している	3 年度計画を概ね実施している	2 年度計画を十分に実施できていない	1 年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	11	0	3	8	0	0
	構成比（%）	(0．0%)	(27．3%)	(72．7%)	(0．0%)	(0．0%)

（2）概況

（評価できる点等）

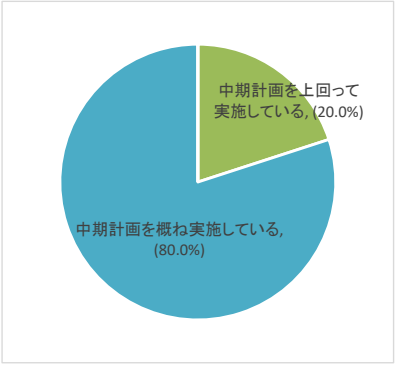
○　教育研究等の質の向上に関わる自己点検・評価の体制を見直し、半期ごとに教育の成果、内容、年度計画の進捗状況を点検し、その結果を学内にフィードバックする体制を整えてPDCAサイクルを構築した。

（課題となる点等）

○　平成29年度の認証評価結果の努力課題として挙げられている「体育館がない」という点について、設置者の福知山市と協議を進めていただき、改善に向けて努力されたい。

中期目標評価 （４年終了時見込）	評価基準
B	中期目標の達成に向け概ね順調に進捗している。

評定平均
3．2



（1）評価理由

小項目別評価において、下記の表の評価結果となり、評定平均値が３．２となっているため、大項目別評価としては、「Ｂ」評価であり、中期目標の達成に向け概ね順調に進捗していると認められる。

	項目数	5 中期計画を大幅に上回って実施している	4 中期計画を上回って実施している	3 中期計画を概ね実施している	2 中期計画を十分に実施できていない	1 中期計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	10	0	2	8	0	0
	構成比（%）	(0．0%)	(20．0%)	(80．0%)	(0．0%)	(0．0%)

(2)概況

(評価できる点等)

○　平成29年度に大学認証評価を受審し、旧私学時代の「不適合」から「適合」の認定を受けたことは大きな努力の賜物であり、認証評価機関の評価結果等を踏まえて、大学及び法人運営の改善に努めていただきたい。

○　地域に根差した新聞やラジオなどのメディアを活用し、地域社会に向けて積極的に大学の情報発信を行い、地域に開かれた大学づくりに取り組まれていること。

(課題となる点等)

○　外部資金の獲得は、研究の質の向上だけでなく財務内容の改善にも関連しており重要であるため、一層の成果を出すには努力目標ではなく数値目標の設定を検討いただきたい。

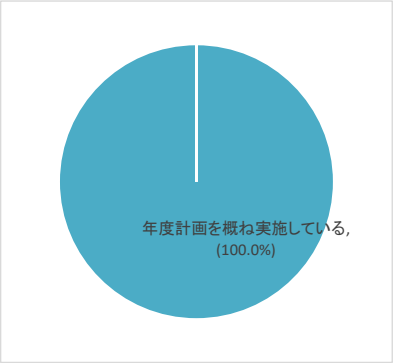
○　大学認証評価において指摘された改善勧告と努力課題への対応を確実に実施していただきたい。

○　積極的な広報活動を展開されていることは理解できるが、数値目標の設定に加えて、効果測定を実施し、広報活動の改善に繋げていただきたい。

第８　その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

令和元年度評価	評価基準
B	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。

評定平均
3．0



(1)評価理由
　小項目別評価において、下記の表の評価結果となり、評定平均値が３．０となっているため、大項目別評価としては、「Ｂ」評価であり、中期計画の達成に向け概ね順調に進捗していると認められる。

	項目数	5 年度計画を大幅に上回って実施している	4 年度計画を上回って実施している	3 年度計画を概ね実施している	2 年度計画を十分に実施できていない	1 年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	7	0	0	7	0	0
	構成比(%)	(0．0%)	(0．0%)	(100．0%)	(0．0%)	(0．0%)

(2)概況
(課題となる点等)
○　教職員の不足が課題であるため、教職員の労務管理や健康管理を適切に行い、職場環境の改善活動に引き続き取り組んでいただきたい。

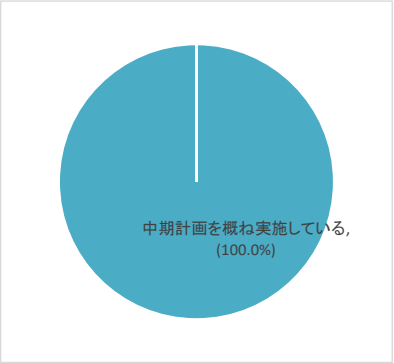
中期目標評価 （４年終了時見込）	評価基準
B	中期目標の達成に向け概ね順調に進捗している。

評定平均
3．0

（1）評価理由

小項目別評価において、下記の表の評価結果となり、評定平均値が３．０となっているため、大項目別評価としては、「Ｂ」評価であり、中期目標の達成に向け概ね順調に進捗していると認められる。

	項目数	5 中期計画を大幅に上回って実施している	4 中期計画を上回って実施している	3 中期計画を概ね実施している	2 中期計画を十分に実施できていない	1 中期計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	6	0	0	6	0	0
	構成比（%）	(0．0%)	(0．0%)	(100．0%)	(0．0%)	(0．0%)



(2)概況

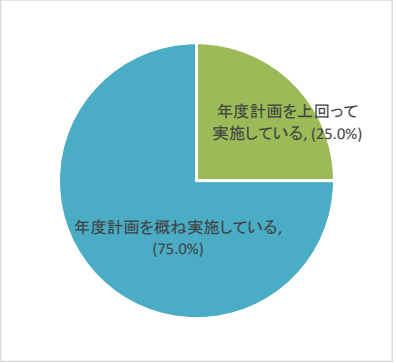
(課題となる点等)

○　インフラ長寿命化計画(行動計画)を定められたが、今後作成する個別計画や中長期修繕計画に基づき、大学施設の計画的な整備を設置者である福知山市と協議して行っていただき、研究・学修環境のさらなる充実を図っていただきたい。

第14　福知山市の規則で定める業務運営に関する事項

令和元年度評価	評価基準
B	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。

評定平均
3．3



(1)評価理由

小項目別評価において、下記の表の評価結果となり、評定平均値が３．３となっているため、大項目別評価としては、「B」評価であり、中期計画の達成に向け概ね順調に進捗していると認められる。

	項目数	5 年度計画を大幅に上回って実施している	4 年度計画を上回って実施している	3 年度計画を概ね実施している	2 年度計画を十分に実施できていない	1 年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	4	0	1	3	0	0
	構成比(%)	(0.0%)	(25.0%)	(75.0%)	(0.0%)	(0.0%)

(2)概況

(評価できる点等)

○　校舎改修工事及び必要備品等の整備を行い、情報学部の開設に向けた準備を行ったこと。

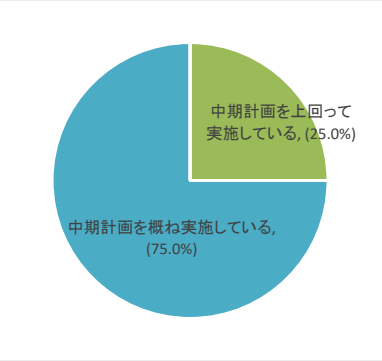
中期目標評価 （４年終了時見込）	評価基準
B	中期目標の達成に向け概ね順調に進捗している。

評定平均
3．3

（1）評価理由

小項目別評価において、下記の表の評価結果となり、評定平均値が３．３となっているため、大項目別評価としては、「B」評価であり、中期目標の達成に向け概ね順調に進捗していると認められる。

	項目数	5 中期計画を大幅に上回って実施している	4 中期計画を上回って実施している	3 中期計画を概ね実施している	2 中期計画を十分に実施できていない	1 中期計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	4	0	1	3	0	0
	構成比（%）	(0．0%)	(25．0%)	(75．0%)	(0．0%)	(0．0%)



(2)概況

(評価できる点等)

○　福知山市からの交付金を活用して、教育研究環境の充実と地域住民や企業等の「知の拠点」としての役割を果たすためにメディアセンター改修工事、北近畿地域連携センターの施設整備、駐輪場の拡幅工事、1号館及び3号館の改修工事を行ってきたこと。

(課題となる点等)

○　教職員の採用を計画的に行い、法人全体でバランスの取れた人員配置を実現し、法人運営の安定化に努めていただきたい。